

杯を 超えて

旧三好記念館コレクション展

開催日時 平成30年6月30日(土)~7月8日(日)
10:00~16:00 休館日 月曜日

会場 佐野市文化会館 展示室B

入場料 無料

主催・お問合せ 公益財団法人 三好園

〒327-0317 栃木県佐野市田沼町362
TEL 0283-62-5497 <http://www.sankouen.org/>





中国（新石器・馬家窯期）
彩文双耳瓶・アンダーソン土器

中国では今から八千年ほど前に土器がつくられ、赤や黒の絵の具をつかって文様をあらわす彩陶は、先史土器の中では名高く、この作品はおおよそ五千年ほど前の作と考えられています。アンダーソンの由来は、はじめて世に彩陶を紹介したスウェーデンの学者の名前です。



西アジア（十世紀）
三彩鉢

この三彩鉢は、中国の晩唐（九世紀）の三彩の影響を受けてつくられた、いわゆる初期のイスラム三彩です。赤味の強い素地に白化粧し、緑・黄・紫・白の釉彩を奔放にほどこして、イスラム陶ならではの想念のおもしろさを堪能させてくれます。



西アジア（十二〜十三世紀）
青釉四耳大壺

西アジアは、イスラム時代にはいった九世紀に中国陶磁の陶技をうけとめて新生陶器をつくりはじめました。この大壺は、イスラム陶独特の炭酸銅で呈色したアルカリ釉でかざった十二〜三世紀頃の作品で、胴部分に縄目文を加え、釉の色が沈み、かせ肌となり、表現は大まかですが力強い作品です。



日本（江戸時代）
伊万里染付山水文大鉢

十七世紀後半に西欧に輸出すべく焼造されて、近年になって買い戻されたものです。中央に窓を抜いて主題の絵図を書き込み、周囲を細かく草花などの文様で割っていく構図は、当時の景德鎮窯がつくりあげた芙蓉手と呼ばれる代表的な様式です。

公益財団法人 三好園(さんこうえん)について

旧三好記念館(S49~H20)

明治44年(1911年)、当園の礎である「蓼沼慈善団」が設立され、大正8年(1919年)に財団法人三好園(さんこうえん)と改組、そして100年を経た平成25年(2013年)、公益財団法人として認定を受け今日に至りました。

当園の軸は育英事業であり、先々公共の為に資するであろう有為な学生に育英資金貸与を行っております。

小さな公益財団法人ではありますが、大きな志を以て、これまでも、そしてこれからも、この事業を継続して参ります。

また、この間、文化事業にも着手し、1975~2008年までは附属施設の「三好記念館」で、その後(2011年度~)は、美術品をより身近に鑑賞していただけるよう外部施設をお借りして収蔵品を展示公開、今日に至っております。

